パラスポーツ支援を通して
地域の活性化につなげる

キーワード　パラスポーツ・インクルーシブ・地域活性

○取り組んだきっかけ

常葉大学の学生ボランティアサークル「障☆スポSC」はパラスポーツの普及を目 指して、障がい者スポーツ大会や様々なボランティアに参加したり、パラスポーツの体験などを企画しています。その一環として地域での活動を行いました。

○活動の目的

ボッチャなど老若男女が楽しめるパラスポーツの講座や体験会を通して、ルールや技術を楽しみながら学ぶことで、地域の方にパラスポーツを知ってもらい、共生社会への理解を深めることと健康増進につなげます。また、学生にとってはスポーツ指導やレクリエーション企画の経験につなげます。

○具体的な内容

「障☆スポSC」は、平成23年に発足し、県内で開催される、ボッチャなどのパラスポーツ大会に運営補助として活動し、また、学内でも、障がいのある方と、学生や地域の方が交流できるスポーツイベントを開催するなど、双方の社会性の向上に向けて活動しています。その中で、特にボッチャに力を入れて取り組んでいます。

ボッチャはパラリンピックの種目になっており、その中でも最重度の障がいの方でもできるスポーツになります。ルールも、目標球（白いボール）にいか近づけられるかを赤ボールチームと青ボールチームで競うというシンプルなもので、そのため、障がい者だけでなく健常者でも広まってきています。

ここでは、障☆スポSCで行った活動の中で、3つの活動についてご紹介します。

1つ目は、大学で開催しているキッズオープンキャンパスでの企画イベントについてです。これは、近隣地域の小学生を対象に開催しているもので、小学生とその親御さんが多数参加していただけました。ここでは、ボッチャを体験してもらい、まずはじめにボッチャの簡単な紹介とルール説明を行いました。その後、2コートに分かれて実際にボールを投げることで感覚をつかんでもらい、その後実際にゲームをして楽しんでもらいました。

2つ目は、浜松市と大学が連携して行う、浜松市と大学との連携事業において、地域の協働センターと協力して「ボッチャを楽しみながら学ぶ」という講座を地域の方々対象に開催しました。普段あまり運動されていないという方が多く、ボッチャを初めて経験する方がほとんどでした。実演しながら説明し、実際にゲーム形式で行うことで、今後もやりたいという声をたくさんいただけました。

3つ目は、静岡ボッチャ協会が主催するBOCCIAしずおかCUPチーム予選会での大会運営補助およびチーム参加になります。障がい者、健常者関係なくチームとなったチーム戦で、優勝チームはTOKYO CUPという全国大会に行けます。

試合を通して、障がいのある方と実際に接して学ぶことができる貴重な機会となりました。

○期待される効果

学生と障がいのある方、地域の方が参加可能なパラスポーツイベントを開催することで、地域のどんな方でも楽しみながら交流ができる機会の創出につながると考えます。また、パラスポーツを通して楽しみや喜びを見つけられ、社会参加や健康増進、また、学生の社会性向上、指導技術向上が期待できます。

これらの活動を通して、障がいのありなしに関わらず、みんなが共生できる社会を創っていくことへ貢献し、QOL（Quality of Life）：人生の質の向上につながっていくことを期待しています。

障☆スポSC
顧問　保健医療学部
櫻井博紀、篠原和也

連携先
静岡ボッチャ協会
浜松市　市民協働センター
常葉大学　地域貢献センターHUVOC